

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Wikimedia Commons : カトレア

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL.12

留守家族連絡会、帰国報告会、エッセイコンテスト表彰式を開催！

2014年3月8日、山形ビッグウイングにて【JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト】表彰式、帰国報告会、ボランティア留守家族連絡会を開催しました。



■ JICA ボランティア留守家族連絡会

現在派遣中の JICA ボランティアのご家族同士の交流、既に帰国したボランティア OB との対話の場として毎年開催しており、当会と NPO 法人山形県青年海外協力協会が主催、JICA も共催しています。今回は、対象となる 15 家族のうち 4 家族 6 名の方々をご参加。

■ 留守家族に聞く～コロンビア派遣中：菅原さん

今回、留守家族としてご参加くださった菅原さんご夫妻に感想などを伺いました。

菅原さんのご子息・暢文さんは鶴岡市出身。山形大学農学部卒業後、青年海外協力隊として 2013 年 10 月からコロンビアで活動中。JICA 《一村一品コロンビア推進プロジェクト》の対象地域・



スサ市で、地域の特産品となりうる農産物の開発や販路拡大などに携わっています。



Q：協力隊 OB の帰国報告を聞いて・・・

日本の感覚や基準を押し付けることなく、現地の人々と共に歩もうとする姿勢が素晴らしい。

Q：留守家族連絡会に参加して・・・

留守家族の参加率が低くて残念。もっと家族同士が交流を深められるように工夫してほしい。

派遣時期によって就職活動への有利不利があるのではないかと。「数ヶ月前に申請すれば、資格試験や就職試験を受けるための一時帰国も可能」との説明を聞き、少しホッとした。

Q：息子さんへの期待、支援体制への要望など・・・

「日本にいる時より、本を読む時間が増えた」そうだ。日本では味わえない豊かな 2 年間を！

コロンビアに派遣中という「危ない国に行ってるね！」と驚かれるが、日頃からスカイプで顔を見て話せるので安心感はある。どの国にも危険な面はあるので、正しい国際理解を普及させてほしい。今秋にはコロンビア視察ツアーに参加し、活動している現場を見てくる予定だ。

成田空港に見送りに行った際に偶然知り合った同時期派遣の留守家族と親しくしている。県内だけでなく、訓練時期や派遣時期、派遣地域が近い留守家族のネットワークがあれば、有意義な交流が生まれるのではないかと。

(エッセイコンテスト表彰式は 3 頁へ)

【企業のグローバル展開と JICA ボランティア活用を考えるフォーラム】開催

2013年11月6日、山形市保健センター大会議室にて【企業のグローバル展開と JICA ボランティア活用を考えるフォーラム】を開催し、20を超える事業体の方々からご参加いただきました。

当会酒井会長、JICA 東北支部半谷良三支部長、協力隊を育てる会奥永真智子理事・事務局長の主催者挨拶につづいて、企業の海外展開支援に資する画期的な施策を推進している JETRO 日本貿易振興機構山形貿易情報センター・鈴木孝平所長、JICA 東北支部・高橋宏彰企業海外展開支援担当のお二人から有益な基調説明をいただきました。

米沢市出身の協力隊 OB・坂野雄大さんからパプアニューギニアでの体験報告。教科書もないジャングルの学校で、①押し付けない ②継続的な活動を見据える ③任国の文化価値観を尊重する、の3点を心がけて理科科教師として活躍された体験は、参加者から高い評価を得ました。

その後、当会斎藤栄司副会長の司会で参加者全員による情報交換。「途上国の情報を入手しやすい首都圏の企業に

対抗するには、JETRO や国際開発ジャーナル社の活用がカギ」「協力隊 OB の県内就職が少ない現状を改善したい」「海外展開支援事業は地方からの採択を増やす方向。北海道は0件→6件、四国も0件→4件に増えた」「製造現場が海外に出て、国内が設計開発だけになると、若者がものづくりから離れていく危険がある」「もっと検討材料がほしい」など活発な意見が出されました。

既に海外展開している企業やこれから目指す企業が一堂に介して情報交換でき、未来に繋がる集いになりました。

(参加団体) 山形カシオ、ハッピー工業、東北パイオニア、山本製作所、後藤電子、新東物産、きらやか銀行、酒田米菓、マハネット、三恵貿易、キャリアクリエイト、寒河江商工会、長井商工会議所、山形県商工会連合会、山形県中小企業団体中央会、山形県企業振興公社、山形県国際経済振興機構、山形県信用保証協会、山形県国際交流協会、山形商工労働観光部、山形公共職業安定所、JETRO、JICA、協力隊を育てる会、YOCA、協力隊を支援する地球家族の会

◆ JICA 中小企業向け事業のご紹介

JICA は、ODA を活用して企業の開発途上国における海外展開、人脈形成などのお手伝いをしています。これらは2つの柱からなり1つ目は**企業の社員の方が JICA のボランティアとして派遣されるもの**であり、2つ目は**開発途上国への海外展開のためのサポート事業**です。

1 民間連携ボランティア事業

本事業は JICA が 2012 年度から本格的に開始したもので、日本企業の海外展開への若手・中堅社員を、従来の青年海外協力隊員やシニア海外ボランティアの形式で、開発途上国へ派遣することでグローバルな人材育成を目的としています。これまでとの相違点は**派遣期間が短期3ヵ月～10ヵ月、長期は1～2年で企業側の要次第で調整が可能**であること。**企業側の要望を入れて派遣国や活動内容、職種等を決めることができる**ことが最大の長所で企業の意向を多くとり入れた形での派遣が可能になったことです。もちろん相手国側との調整は JICA が行い、派遣前の訓練は従前の協力隊員と一緒にいきます。給与関連については有給休職の場合、中小企業に対して次の優遇措置があります。

①給与・賞与の80% ②社会保険料事業主負担の一部 ③退職金給与引当金相当額の一部 を補てんします(補てん総額の上限額55万円/月) また、現地での生活費・往復渡航費は従来のボランティア同様支給されます。

この連携ボランティアは生活や職場の環境が必ずしも整備されていない現地においてネットワークを築きながら、自らの力で創意工夫・企画しながら活動を行うことによって精神力、忍耐力、コミュニケーション力が育まれ、より多くのグローバルな人材が育成されていくことが期待されます。

2 ODA を活用した海外展開支援事業

この事業では中小企業に ODA のフィールドでの活躍の場を提供するもので ①**自社製品・技術を ODA に活用できるかの検証** ②**現地ビジネス環境の情報** ③**技術を通して開発途上国との人脈作り** ④**開発途上国の貧困問題に貢献するビジネスの遂行** 等を目指す場合は大いに活用できるものです。具体的には ODA による開発途上国支援と中小企業等の海外展開のマッチングのための事業であり、主なものは次の通りです。

スキーム名	予算上限	件数	期間	目的
中小企業連携促進基礎調査	1,000万円	10件程度×年2回 公示(7月、1月)	最大1年間	開発途上国の問題解決に貢献する中小企業の海外事業(直接輸出による事業)に必要な基礎情報収集・事業計画策定のための調査を行うもの
協力準備調査(BOP ビジネス連携促進)	5,000万円 (中小企業のみ2,000万円を上限とする可)	10件程度×年2回 公示(9月、3月)	最大3年間	開発途上国で BOP ビジネスを計画している本邦法人からの提案に基づき、ビジネスモデルの開発、事業計画の策定、ならびに JICA 事業との協働事業可能性について見当確認を行うもの
協力準備調査(PPP インフラ事業)	1億5,000万円	数件×年2回 公示(5月、11月)	制限無し	PPP インフラ事業への参画を計画している本邦法人からの提案に基づき、海外投資資または円借金を活用したプロジェクト実施を前提として、PPP インフラ事業の基本事業計画を策定し当該提案事業の妥当性・効率性等の確認を行うもの
案件化調査	3,000万円 または5,000万円	47件 公示(5月、11月)	数ヶ月～1年 程度	中小企業からの提案に基づき、製品技術を開発途上国の開発へ活用する可能性を検討することを目的
普及・実証事業	1億円	25年度補正22件 (平成26年3月公示) 26年度22件 公示(9月)	1～3年間	中小企業からの提案に基づき、製品技術に関する途上国の開発への現地適合性を高めるための実証活動を通じ、その普及方法を検討することを目的
開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業	2,000万円	10件程度×年2回 公示(8月、2月)	最大2年間	開発途上国の政府関係者を主な対象とする本邦での研修や現地でのセミナー等を通じて、日本企業が持つ優れた製品、技術、ノウハウ等への理解を促すとともに、開発への活用可能性検討を行うことを目的とするもの

■ JICA 国際協力中高生 エッセイコンテスト 2013 入賞おめでとう!

山形県では5名が個人賞に、9校が学校賞に入賞。



テーマ「世界と日本の幸せのために-私がしたいこと、すべきこと」
中学生の部 44,289 点、高校生の部 28,964 点、総数 73,253 点もの応募作品の中から、本県の中学生 2 名、高校生 3 名、9 校が見事入賞なさいました!

★独立行政法人国際協力機構 東北支部長賞

「ボランティアに必要なものとは」小林由佳さん (山形市立第四中1年)
「野菜栽培を伝える」新穂奈津美さん (県立庄内農業高2年)

★NPO 法人山形県青年海外協力協会会長賞

「僕の誕生日」巻田樹くん (川西町立川西中2年)
「木を植える日本人から。」勝見真衣さん (県立米沢商業高2年)

★佳作

「価値はみんな同じ」高橋楓乃さん (県立鶴岡北高1年)

★学校賞

川西町立川西中、県立天童高、県立米沢商業高、
県立米沢興譲館高、山本学園高、県立谷地高、
県立鶴岡北高、県立庄内農業高、県立寒河江高

エッセイ
コンテスト
表彰

「価値はみんな同じ」で佳作に入選した高橋さんからメッセージ頂きました。
—— 小学校時代、病院で合唱演奏した際、障がい者とふれあう機会を得、障害があっても無くても心が通じ、人間はみな平等だと感じました。高校生になった今、世界の戦争や貧困、地域格差の現状に疑問を感じています。障がいの有無や人種、住んでいる地域 etc... 「平等」を考えるきっかけを与えてくれた合唱を、これからも歌い続けたい!

海を越えたヤールウォー ~教師海外研修

平成 25 年度の JICA 東北支部教師海外研修に参加した本間紘さん (鶴岡市立朝陽第三小学校教諭) の活動を紹介します。東北各県から小学校 6 名、中学校 1 名、高校 2 名、中高一貫校 1 名の合計 10 名の教師が、25 年に渡る内戦が集結し、復興へ歩み出したスリランカを訪問しました。

内戦の傷跡は想像以上に深く、子ども達に将来の夢を尋ねると、大都市コロomboではスポーツ選手や弁護士など多彩な将来像が挙げられたのに対し、内戦が激しかった北部では他の職業を知らないため、医者・エンジニア・教師の3種類しか出てこなかった。戦争がいかに物理的にも文化的にも破壊を生むか、スリランカの子ども達の夢を通して、日本の児童に考えさせたい。

帰国後、《スリランカ・鶴岡からはじめよう!ぼくにもできる国際理解 国際協力》と題して、朝陽三小4年生を対象に授業を行なった。

国語では世界遺産「シーギリヤロック」の写真を見てのフォトランゲージ、スリランカについて調べ学習と発表。道徳では、自分たちの夢とスリランカの子ども達の夢を比較して、内戦と平和について考えさせた。児童達からは「おこらないでいる人を見習いたい。みんなのゆめがかなってほしいし、かなったらとてもうれしい」「地雷が土の中にうまっているとふんでしまいそうでこわいです。動物もかわいそう」などの感想が出た。

総合的な学習の時間では、国際理解から国際協力へのステップアップを目指した。内戦で荒廃したスリランカのために汗を流している日本人の活動ぶりを伝えると、児童から「僕らも外国人のためになることをやりたい!」との声。隣接する山形大学農学部 (4頁へつづく)

《平成25年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期 日	事 業
6月 1日	定例総会/事業・決算報告、事業計画、予算の承認、役員改選 帰国報告 (ラオス、ケニア) / 22名
6月 9日	ワールドバザール/JICAボランティア事業の啓発、PR活動 於: 羽羽庄内国際村/5名
6月20日	25年度1次隊(4名)表敬訪問並びに壮行 — モロッコ、パラグアイ、エルサドバドル、ネパール 於: 県庁/6名
9月18日	25年度2次隊(2名)表敬訪問並びに壮行 — マーシャル、コロンビア 於: 県庁/4名
11月 6日	企業のグローバル展開とJICA ボランティアの活用を考えるフォーラム JICA、JETRO、育てる会の報告、企業等23団体との意見交換、 帰国報告 (パプアニューギニア) 於: 霞城セントラル/44名
H26年 3月 8日	ボランティア家族懇談会及び帰国報告会、国際協力エッセイコンテスト受賞者の作文朗読 2名の隊員による帰国報告 (ヨルダン、フィリピン) 於: ビッグウィング (山形市) / 34名

※ 6月1日一機関紙発行 ※ 育てる会のカレンダーの作成並びに会員への送付

(3頁よりつづき)

からインドネシア人留学生 10 名を招き、児童と交流して頂いた。子ども達は「留学生と一緒に遊んで、心が通じ合った。登下校中にすれちがったら、声をかけたい」「留学生が上手に折り紙を折れて喜んでいたので嬉しい」と手応えを感じていた。一方、留学生からも「絶対にまた来たい！子どもたちに日本の文化を教えてもらえるなんてハッピーだ」「普段、地域の子もたちと関わることがない。大学以外の市民とつながれるいい機会だ」との感想があった。



研修で訪れたコロomboの女性障がい者施設「ミッセワナ」で手作りのアヒルの人形を頂いた。児童達は「ガガちゃん」と名付けて可愛がり、やがて「ミッセワナの人たちのために何かしたい！」との声が上がった。

児童たちが習字やグリーティングカード、版画、しおりなどを作って贈ったところ、ミッセワナの方々は目を輝かせて「ヤールウォー(=友達)にお礼を言いたい！」と喜んでくれたそうだ。海を越えたヤールウォーができたことを知って、児童も大喜びだった。

観光旅行では絶対に行くことのできない場所へ行き、知らなかった世界を見せて頂いた。北部の貧しい地域では、むしろ穏やかで優しい人が多いことに感動した。濃密な 10 日間の研修を通して、“心を通い合わせたい”という意味さえあれば、言葉が不自由でも現地の方と笑顔で交流できると確信できた。これからも児童に「外国人と心が通じ合った」と感じられる成功体験を通して、国際人としての素養を高めてさせていきたい。

■『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』 入会のご案内

【会費】 ●個人会員 = 3000 円 ●家族会員 = 1000 円 (個人会員の家族)

●学生会員 = 1000 円 ●団体会員 = 10000 円 (企業及び団体)

【会員特典】 JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える！

「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、年間購読料 5000 円のところ、希望する会員には 2000 円の送付手数料のみで 1 年間 12 冊ご提供いたします。

恋するフォーチュンクッキー ～ JICA と世界でがんばる仲間たち ver. ～

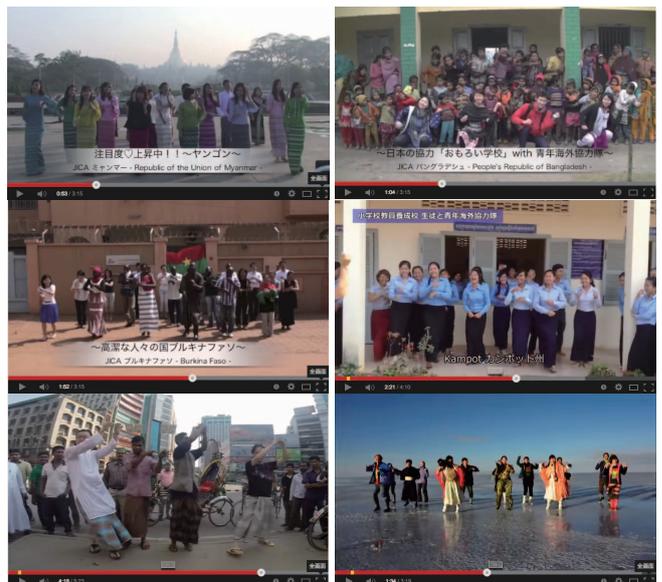
2013 年夏に発売された AKB48 のヒット曲『恋するフォーチュンクッキー』。そのミュージック・ビデオと同じダンスを一般の方が踊った映像をインターネットに公開し、自治体・企業・団体などを PR する取り組みがブームです。世界で活躍する JICA ボランティアが地元の方々と一緒に踊り、撮影した映像も公開されています。いかに多くの国々、多彩な職場や環境で活動しているかが伝わる必見の映像、とくにご覧あれ！

恋するフォーチュンクッキー JICA

検索

<https://www.youtube.com/watch?v=g5bavpWD33w>

▼《世界でがんばる仲間たち ver.》では各国の名所旧跡をバックに、派遣中の JICA ボランティアと地元の方々が熱演。それぞれのお国柄がよく分かります。



▲カンボジア ver. では、中学生や教員養成校で学ぶ未来の教師たちと一緒に。笑顔がステキ！

▲バングラデシュ ver. では、「最貧国」のイメージが塗り替えられる生き生きとした表情が印象的です。

▲南米ボリビア ver. は「一生に一度は観たい絶景」ウユニ塩湖で撮影。ウユニ市長さんも登場！

☆お問い合わせ／ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 VOL.12 平成 26 年 5 月 31 日発行 (第 12 号) 発行人／酒井忠久

発行／〒 999-7725 山形県庄内町沢新田 151 富樫方 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局

TEL&FAX) 0234-42-1458 (富樫) E-mail) info@chikyukazoku.net Website) <http://www.chikyukazoku.net/>